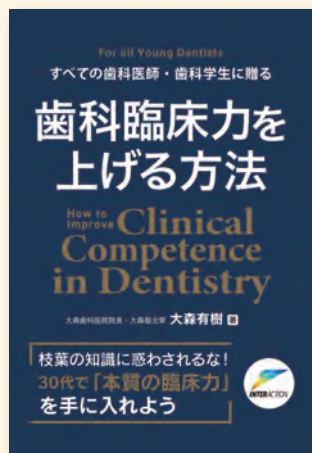


すべての歯科医師・歯科学生に贈る
歯科臨床力を上げる方法



著 大森 有樹

四六判・126 ページ・定価 5,500 円（税込）

マンガで学ぶ
はじめての前歯部修復
成功のために押さえておきたい
6つのトピックス



著 岡崎 英起

A4 判・108 ページ・定価 10,120 円（税込）

Er:YAG レーザーと FGF-2 による
低侵襲再生療法

重度骨欠損からインプラント周囲炎まで



著 原田 和彦

A4 判・100 ページ・定価 9,680 円（税込）

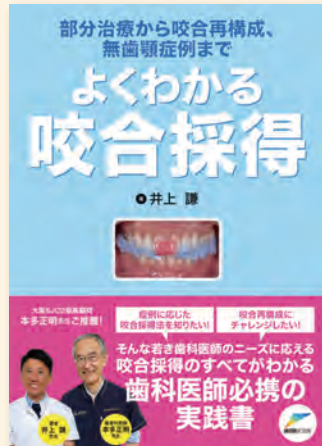
無理なくできる
GP 矯正治療導入マニュアル



著 寺本 清峰

A4 判・112 ページ・定価 9,240 円（税込）

部分治療から咬合再構成、
無歯顎症例まで
よくわかる咬合採得



著 井上 謙

A4 判・196 ページ・定価 9,680 円（税込）

成功に導くための基準と
ステップがわかる
前歯部審美治療のルール



監著 小濱 忠一

A4 判・228 ページ・定価 13,200 円（税込）

注文票

品名	税込価格	冊数
咬合支持の評価 インプラント時代の包括的補綴設計	11,000 円	

インターアクション株式会社

東京都町田市大蔵町 507-1

TEL 070-6563-4151 FAX 042-860-3151

https://interaction.jp



INTERACTION

BOOK INFORMATION

咬合支持の評価 インプラント時代の包括的補綴設計

著 本多 正明／井上 謙

従来の評価法を、一步先へ。

補綴による支持力回復を数値化する、唯一のメソッド。
それが「本多の咬合支持評価法」です。



A4判 208 ページ

定価 10,000 円＋税

ISBN 978-4-909066-89-3 C3047

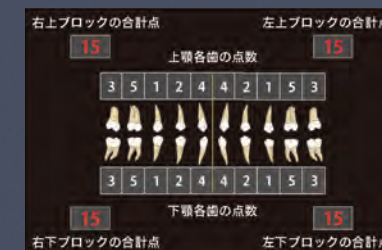
従来の欠損病態を眺めるだけの診断では、
インプラントや多様な補綴選択肢が存在する
現代の臨床に対応しきれなくなっています。
本書が提唱する著者オリジナルの『本多の咬合支持評価法』は、
インプラントをはじめとする各種補綴法が、
その患者の咬合支持力を「どの程度回復できるか」を
明確な数値として評価することができる画期的な方法です。
本書は、経験や感覚に頼らない、確実に適切な補綴設計を
導き出すための《臨床医必携のバイブル》です。

本多の咬合支持評価法とは

咬合支持を負担することができる
歯がどの程度存在するかを評価する
咬合圧負担能力指数

咬合支持を担う歯の存在と
実際の咬合支持の程度を評価する
咬合支持指数

を組み合わせることで、「病態の正確な把握」と「過不足のない補綴設計」を客観的に見える化するインプラント時代の評価法です！



▲咬合圧負担能力指数



▲咬合支持指数

『本多の咬合支持評価法』を明日から実践できるステップ・バイ・ステップのガイドブック

本書の構成

『咬合支持の重要性』と、『現在の状態』をただ知るだけでなく
『治療によって支持力がどう変わるか』を予測することの臨床的意義を解説

CHAPTER 1&2

CHAPTER 1

咬合支持の重要性

なぜ「咬合支持」に着目すべきなのか？

欠損歯列の存在が招く種々の影響と、咬合支持の回復が担う役割を解説します。



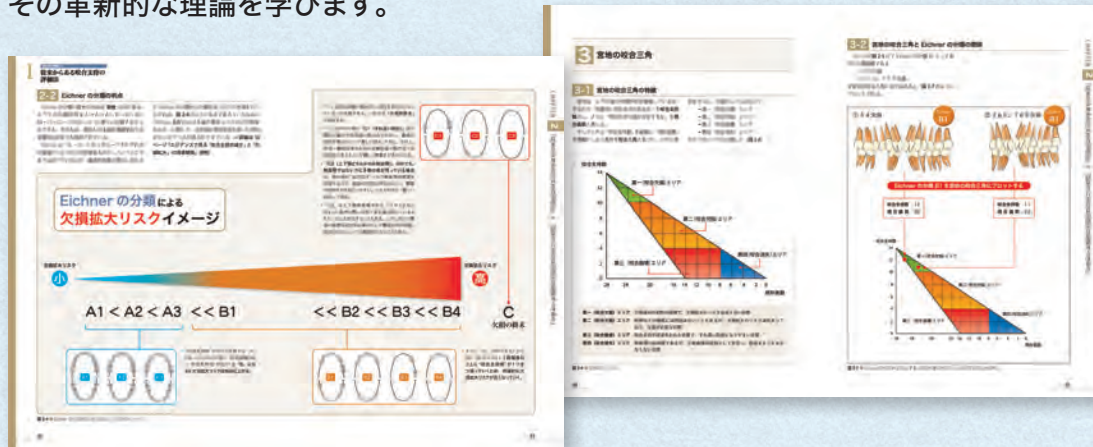
おもなCONTENTS

- 1 欠損歯列を疾患として捉える
- 2 欠損拡大のスパイラル
- 3 「咬合支持の回復」による欠損拡大の阻止
- 4 咬合支持とは

CHAPTER 2

「従来からある咬合支持の評価法」と「臨床的に有効な評価法の具備すべき条件」

従来の評価法の限界と、本多の評価法がそれをどう打破し、長期安定な補綴設計へ導くのか、その革新的な理論を学びます。



おもなCONTENTS

I 従来からある咬合支持の評価法

- 1 咬合支持の評価の必要性
- 2 Eichnerの分類
- 3 宮地の咬合三角
- 4 Molar Occusal Units
- 5 Occlusal Units
- 6 Cummerの分類

II 臨床的に有効な咬合支持の評価法の具備すべき条件 ほか

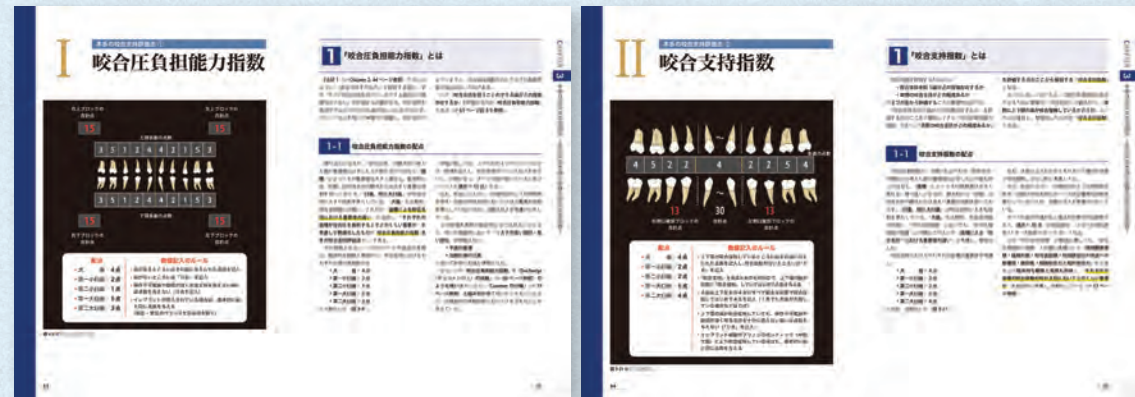
ビジュアルで直感的にわかる、
『本多の咬合支持評価法』実践・活用ガイド

CHAPTER 3&4

CHAPTER 3

本多の咬合支持評価法 ―咬合圧負担能力指数と咬合支持指数―

『本多の咬合支持評価法』を実際のケースでどう使い、
どう数値化するかをステップ・バイ・ステップで徹底解説。



おもなCONTENTS

I 咬合圧負担能力指数

- 1 「咬合圧負担能力指数」とは
- 2 咬合圧負担能力指数から読み取るべき事項

II 咬合支持指数

- 1 「咬合支持指数」とは
- 2 咬合支持指数の着目ポイント
- 3 咬合支持指数を用いた咬合支持の評価

III 「咬合圧負担能力指数」と「咬合支持指数」からは読み取れないこと ほか

CHAPTER 4

症例で学ぶ 咬合圧負担能力指数と咬合支持指数の臨床応用

各種補綴法がもたらす支持力アップの度合いを、
具体的な症例をもとに数値化・シミュレーションするプロセスを公開します。



おもなCONTENTS

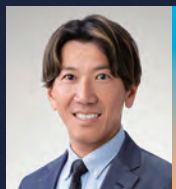
- 天然歯列症例(2例)
 - ブリッジ症例(1例)
 - インプラント症例(3例)
 - パーシャルデンチャー症例(3例)
- ほか

著者からの一言メッセージ



本多 正明先生
(東大阪市・本多歯科医院)

「欠損歯列の拡大を抑える補綴設計は、オールフレイルやサルコペニア予防に欠かせません。患者のQOLの回復と維持のために本書をぜひ役立ててください。」



井上 謙先生
(岡山市・I DENTAL CLINIC)

「インプラント時代に誕生した新しい《本多の咬合支持評価法》は、欠損補綴を行うすべての臨床医にとって有益な評価法です。ぜひご活用ください。」

私たちが推薦します

**日本臨床歯科学会 理事長
山崎 長郎先生**

**くれなゐ塾 主宰
内藤 正裕先生**

「本書は、欠損歯列に対する治療計画を立案する際のよき指標となることは間違いないだろう」

「本多先生の評価指標は、インプラントと天然歯の混在した症例の『診断の扉』を開く鍵となる」

コピーして
使える！

咬合圧負担能力指数と
咬合支持歯数の記入シート
も付いています